



進藤裕之後援会 NEWS

発行 | 進藤裕之後援会

発行責任者 | 高須保弘

長岡京市神足焼町1
松下労働電子半導体支店
☎(075) 956-9943

印刷 | きたむら工房

部
内
資
料

ずっと住み続けていきたい長岡京市を目指して

三輪正夫長岡京市議会議員と対談



「ひらかれたわかりやすい議会の実現」
進藤…これからのまちづくりの際には、行政の情報や決議機関である議会の情報を、市民にもっと発信していくべきだと思いますが、どうお考えですか。

三輪…情報はただ単に発信するだけではだめで、例えば、行政情報なら北海道のニセコ町のように詳しく、わかりやすく伝えるべきだし、議会の情報も単なる結果の報告ではなく、反対意見も含めた論議経過も伝えたいね。
進藤…長岡京市も行政に関する結果についての情報は増えてきたと思いますが、三輪議員が言われているように議会や委員会での議決結果だけでなく、その論議経過も発信していくべきですね。私もこの後援会ニュースやホームページで、タイムリーにわかりやすく議会に関する情報を掲載していきたいと思っています。
進藤…市町村合併については

「子どもたちがいきいきと成長できる環境の整備」
進藤…つぎの新しい世の中をつくっていく子どもたちが、いきいきと成長できるように環境をつくるためには、何が必要だと思いますか。
三輪…子どもたちが感激して

「全員のひとにやさしい安心なまちづくりの実現」
進藤…今後ますます少子高齢化が進むなか、安心して暮らせるまちづくりのためには、どのようなことを考慮するべきでしょうか。
三輪…例えば、ヨーロッパでは都市計画法で500mごとに食料や日常生活用品が買える店を作らなければならない法律のある国もあるね。
進藤…高齢者のかたが徒歩で買物ができるわけですね。そのような例も参考にしながら

最後に — 対談を終えて
情報の必要性・重要性はよく言われていますが、わかりやすく伝えないと意味がないと痛感しました。私も、「わかりやすい双方方向の情報共有」を目指して頑張っていきます。



暑い日が続いておりますが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。
このたび「進藤裕之後援会ニュース」の創刊号をお届けする運びとなりました。私は、後援会の皆様へ、この進藤裕之後援会ニュースにて、活動報告をさせていただきます。



後援会ニュース創刊号をお届けします

だき、また長岡京市政に関するさまざまな情報などもわかりやすくお伝えしていきたいと考えております。
私もこの長岡京のまちが大好きです。市民の皆様が「これからはずっと住み続けていきたい」と思っているだけ長岡京市を目指して、これからの活動をすすめてまいります。
皆様のお力添えをいただき、一生懸命頑張る決意でございます。今後とも「指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

どう考えていくべきでしょうか。
三輪…向日市、大山崎町とすでにゴミ処理、消防、福祉事務などを一部事務組合で運営しているね。この他に、上水道や下水道などでも、できるものは実施して効率的に運営する必要があると思う。
進藤…そのためには、そんなことに関する情報も市民にきちんと伝えていく必要がありますね。
三輪…わかりやすくが大切。行政は様々な情報を数字の羅列で出してくるが、市民の方には、その資料だけではわからないことが多い。それをグラフ化したり、何と比較すればよくわかるかなど、行政が出した情報をぼくらが知恵をしばって、加工していく必要がある。
進藤…IT化も必要ですが、よりわかりやすく工夫して発信していくことが求められるということですね。



涙を流すような経験が減っているね。かわいそうというのではなく、いわゆる揺り動かされて、感動して思わず涙がわいてきたという経験が、ものすごく大事だと思う。しかし、そのような機会が減っているね。
進藤…そうですね。日々の体験の中で、そのような経験が欲しいですね。
三輪…感性がみがかれるような経験だね。



ら、小さな子どもから高齢者の方まで、みんなが安心して暮らせるまちづくりを目指していきます。
「自然と共生できる暮らし文化の創造」
進藤…これからはリサイクルだけではなく、ゴミをださないう循環型社会を目指す必要がありますね。
三輪…そうですね。リサイクルというのは最後の手段であり、買わない、使わない、ということが優先されなければならぬね。みんなが、いろんな情報を本当に知っていると、このままでは良くないと思うようになっていくだろうね。
進藤…ゴミの減量化に関しても地球規模の環境の話などいろいろな情報をオープンにして、みんなで検討していく必要があると思うですね。

「進藤裕之」の目指す「社会」

ここでは、私「進藤裕之」のプロフィールと、私が目指す「社会」について、お話ししたいと思います。

プロフィール

私は、一九六四年に大阪の東大阪市というところで生まれました。現在、三十七歳です。

小さいころは、どちらかというと引つ込み思案だったことを覚えています。東大阪市には、結婚するまで二十八年間住んでいました。

小学校、中学校は徒歩で近くの公立学校に通い、高校へは近鉄電車に乗って通っていました。

大学は神戸のほうで、会社は、この京都の長岡京です。それからこれまでもずっと三十七年間関西を離れたことがありません。

越してから六年になります。現在は、東神足の小畑川沿いのマンションに住んでおります。

この小畑川には季節の鳥が訪れたりして、四季を感じる事ができ、恵まれた環境だと思っております。



旅行が大好きで、鉄道ファンでもありますので、独身時代は鉄道に乗るためだけの旅行もよくしておりました。

ゴミ問題について勉強しました

ネットワーク「地球村」という地球環境を考え行動している環境NGOがあります。

乙訓地区にある、おとくに「地球村」主催の連続企画でゴミの勉強会がありましたので、行ってききました。

【PART1】美しい地球を子どもたちに

ゴミとダイオキシンの問題と地球温暖化について勉強しました。特に、ヨーロッパでのゴミ削減に対する取り組みから多くのことを学ばせていただきました。

【PART2】長岡京市のゴミの現状

長岡京市が直面している、ゴミに関する課題を勉強しました。ゴミの減量化については、早期に実現するために、市民と行政が知恵を出し合っばならないと感じました。



となく、すべれるようになりました。

座右の銘は「家庭愛和」です。社会生活の基盤は家庭にあると思います。家庭がしっかりとしてこそ、社会においても一人一人が力を発揮できると思っています。未来をにう子どもたちを育てていくためにも家庭は最も大切な場だと考えています。

これまでの経歴は次のとおりです。

- 一九八二年 大阪府立八尾高校卒業
- 一九八六年 神戸大学理学部卒業
- 同年 松下電器産業(株)入社
- 二〇〇一年 長岡京市市民懇話会幹事

「私が目指す社会」

私が目指す「社会」は、これからの二十一世紀をにう子どもたちが、いきいきと成長できる社会です。

「自分たちの世代が今さえよければいい」という考え方を改めなければ、今の財政問題や地球環境の問題などは根本的に解決できないのではないかと思っています。

国と地方自治体の借金を合わせて六六兆円とはよく耳にする数字です。

このような借金や、また、温室効果による海面上昇や環境ホルモンなどで、人間が住めなくなってしまうような地球環境を、自分たちの後の世代に残しては、「自分たちの親の世代はいいんだ」と言われかねません。

子どもたちの世代に、私は自信を持って引き継げるような社会を目指して、頑張りたいと考えています。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

進藤裕之 ホームページを開設

What's New—新着情報

- 5つの政策—進藤裕之の活動方針
- プロフィール—自己紹介
- 掲示板—ご意見・ご要望はこちらへ
- 日記帳—日常で感じたこと
- 後援会—後援会加入のご案内
- リンク—長岡京市に関係したHP紹介

アドレス : <http://www.shin-do-it.com/>
皆様のアクセスをお待ちしています

「この意味教えて！」のコーナー

【ダイオキシン】

全部で210種類ある化学物質の総称。その95%は廃棄物の焼却時に副次的に生成されるとされており、強い毒性をもつ。また、乏精子症(精液1cc中の精子が4000万個以下)の若い成年男子の血中ダイオキシン濃度が高い、との報告もでている。

【環境ホルモン】

人の健康や野生生物へ影響等を与える可能性のある化学物質。内分泌かく乱物質ともいう。

【NGO】

Non Governmental Organizationの略で非政府組織。政府間の協定によらずに創立された、民間の国際協力機構。

きぬかつぎ

編集後記のタイトルとして「きぬかつぎ」と名付けました。きぬかつぎとは、中秋の名月にお供えする皮ごと茹でたさといもの小芋のことです。さといものは、地下茎の肥大化したもので、親芋、小芋、孫芋と地下で広がって成長していきます。煮物には欠かせないもので、何か郷愁を誘う、秋を感じさせる食物です。

進藤は、今はまだ、政治家としての活動をスタートさせたい。たばかりの小芋のような存在ですが、派手でなくても地域に根ざした活動を徐々に広げて成長しつづけ、いつまでも人から愛されるような政治家になつて欲しいと願っております。

今後ともこの後援会ニュースのご愛読をよろしくお願ひします。